PHONAK

デジタル　耳かけ型補聴器　**ウナ**

Una™ M
Una™ M AZ
Una™ SP
Una™ SP AZ

取扱説明書

■はじめに

この度はフォナック社の補聴器をお買い求めいただき、誠にありがとうございます。
ご使用になる前に、この取扱説明書をよくお読みいただき、正しくご使用ください。
また、この取扱説明書は保証書と一緒に大切に保管してください。

■安全上のご注意（必ずお守りください）

お使いになる方や他の方への危害·財産への損害を未然に防止するため、必ずお守り頂くことを下記のように説明しています。

■表示内容を無視して誤った使い方をした場合に生じる危害や損害の程度を次ように区分し、説明しています。

⚠ 警告	この表示がある項目は、「死亡または重症などを負う可能性が想定される」内容です。
⚠ 注意	この表示がある項目は、「損害を負う可能性、または物的損傷のみが発生する可能性が想定される」内容です。

■お守りいただく内容を次のように表示し、説明しています。

⊘ 禁止	この表示がある項目はしてはいけない「禁止」の内容です。

■ご使用にあたって

禁止

- 音量を大きくしすぎないで下さい。
- 騒がしいところでは音量を小さめにするか、長時間使用しないようにしてください。
- 強い衝撃を与えたり、落としたりしないようにしてください。
- 補聴器は医療機器ですので、分解や改造はしないでください。
- レントゲン撮影、CT スキャン等の画像診断機器は補聴器に悪影響を及ぼします。これらの機器を用いた撮影を受ける前には補聴器を外し、撮影室の外に置くことをお勧めします。
  また MRI スキャンは強い磁力を用いますので、MRI 室に入る前には必ずお外し下さい。
- 過度の湿気や温度を避けて下さい。特に夏の時期、窓や車のフロントガラスの近くには置かないようにしてください。

・補聴器の内部に水が入ると故障する恐れがありますので、水にぬらさないで下さい。
（例：お風呂に入るときなど）
・電池は火中に投げ入れないでください。

⚠ 警告
ペットのそばや子どもの手の届くところに保管しないで下さい。万が一、誤って電池を飲み込んでしまった場合、ただちに医師にご相談ください。

⚠ 注意

- 指向性マイクロホンを搭載した機種は、主に背後から来る音を抑えます。そのため、装用者の背後に近づく車の音や背後で鳴るクラクション（警告音）が聞こえにくいことがあります。
- 補聴器を使用しない場合は電池を取り出してください。そして湿気を取り除くために電池ホルダーを開けたままの状態で乾燥ケースの中に保管してください。
- ご使用になるまでは電池のシールをはがさないでください。ご使用の際にシールをはがし、30 秒ほどお待ちになってからご使用ください。
- 使用済みの電池は、各自治体指定の方法により処分をしてください。
- ご不要になった補聴器は、各自治体指定の方法により処分をしてください。
- 汗、湿気、皮脂、耳垢、整髪料などが補聴器内部に入ると故障する恐れがありますので、ご使用後はお手入れ（20〜23 ページ）を行ってください。

■ご使用になる前に

- 補聴器は聞こえを元にもどすものではなく、聴力を補う機器です。
- 使い始めは音量を小さめにして、慣れてきたら徐々に音量を調整してお使いください。
- 補聴器はお客さま専用に調整されていますので、他の人に貸したり、他の人の補聴器を装用しないでください。正しく調整されていない補聴器は効果がないばかりか、 場合によっては耳を傷めたりする恐れがあります。
- 耳を治療中の方、治療をしたことがある方は主治医にご相談ください。
- 聴力の変化に伴い、補聴器の再調整が必要になる場合がございます。聴力測定を年に一度はお受けになることをお勧めします。

⚠注意

下記の項目に該当する場合は、補聴器を使用する前に耳鼻咽喉科医にご相談ください。

- 耳の治療中の方、耳の中や耳の後の痛みまたは炎症がある場合
- 過去 90 日以内に耳だれがあった場合
- 過去 90 日以内に突発性または進行性の聴力低下があった場合
- 過去 90 日以内に左右どちらかの耳に聴力低下があった場合
- 急性または慢性のめまいがある方

下記の項目に該当する場合は、補聴器の使用をすぐに中止し、耳鼻咽喉科医または販売店へご相談ください。

- 耳の皮膚が赤くなったり、かゆみ・湿疹等が出た場合
- 耳だれが出てきた場合
- 耳の治療が必要になった場合
- 耳の聞こえが急に悪くなったと思える場合

■目次

各部の名称……1～3
電池の交換方法…… 4.5
チャイルドロックについて（別売）…… 6
補聴器の使い方
　電源の入れ方／切り方…… 7
　補聴器の装用方法…… 8～13
　音量の調節方法…… 14
　プログラムの切替方法…… 15
プログラム設定表…… 16
FMシステムについて（別売） …… 17～19
ご使用後のお手入れ方法…… 20～23
補聴器の保管について…… 24
初めてお使いになる方に…… 25

故障かと思われたときは…… 26
仕様･性能…… 27～30
アフターサービスについて…… 31

■各部の名称

（イヤモールドの場合）

①マイクロホン音口（マイクロホンカバー付）
（音の入口）
②プログラムスイッチ
③ボリュームコントロール
④電池ホルダー（電源の入/切機能付）
⑤フック（音の出口）
⑥イヤモールド（別売）

電池サイズ:PR48（13）

（スリムチューブの場合）

①マイクロホン音口（マイクロホンカバー付）
（音の入口）
②プログラムスイッチ
③ボリュームコントロール
④電池ホルダー（電源の入/切機能付）
⑤スリムチューブ（音の出口）（別売）
⑥ドーム型耳せん（別売）
⑦ストッパー

電池サイズ:PR48（13）

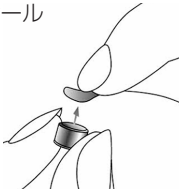
（Fit'nGoの場合）

①マイクロホン音口（マイクロホンカバー付）
（音の入口）
②プログラムスイッチ
③ボリュームコントロール
④電池ホルダー（電源の入/切機能付）
⑤フック
⑥Fit'n Go チューブ（音の出口）（別売）
⑦ワックスプロテクター
⑧ストッパー

電池サイズ:PR48（13）

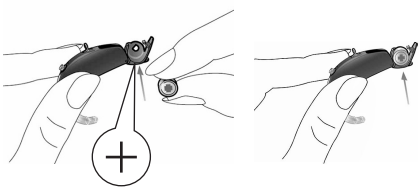
■電池の交換方法

1. 新しい電池の保護シールをはがします。
シールが貼ってある側が（+）面です。

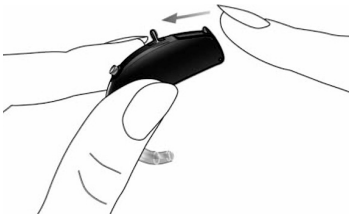


2. 電池ホルダーを開け、使用済みの電池を取り出します。

3. 新しい電池を入れます。電池の（+）面と電池ホルダーの+マークが同じ方向になるようにあわせます。



4. カチッと閉まるまで、電池ホルダーを
ゆっくり押します。



⚠注意事項

・電池ホルダーは丁寧に扱い、無理な力を加えないでください。

・電池ホルダーがうまく閉まらない場合には、電池が正しく収納されているか確認してください。電池がプラスマイナス逆向きに収納されている場合、きちんと閉まりません。

電池寿命お知らせ音
電池がなくなりかけると、お知らせ音（ピー、ピー）が鳴りますので , 電池を新しいものに交換してください。（電池がなくなる約 30 分前に鳴りますが、電池の状態によって異なります。）

■誤開防止電池ホルダーについて（別売）

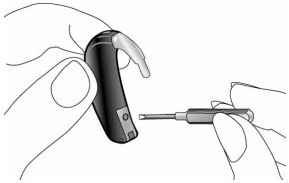
誤開防止電池ホルダーについて

電池の誤飲などによる危険を防ぐため、電池ホルダーを開かないようにロックすることができます。

電池ホルダーをロックするには:
電池ホルダーを閉めた後、ドライバーを使用してネジの線が縦になるように回します。

縦

ロック



電池ホルダーのロックを解除するには:
ドライバーを使用してネジの線が横になるように回します。

横

ロック解除

注　意

ロックされている時は、電源を入/切することはできません。電源を切るには、ロックを解除する必要があります。

■補聴器の使い方

電源を入れる方法：電池ホルダーを閉める

電源を切る方法：電池ホルダーを開ける

ポイント

電源を入れると、補聴器はあらかじめ調節された音量とプログラムに自動的に設定されます。

注　意

スタートアップの遅延が設定されている場合、電源を入れると一瞬だけ音が出た後、9 秒または 15 秒間は音が聞こえなくなります。

装用の前に

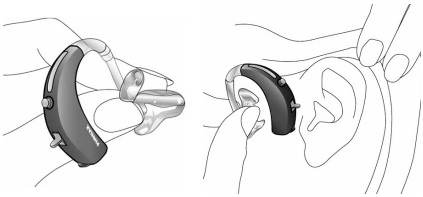
左右を色で見分けることができます。

左耳用：青色
右耳用：赤色

補聴器を耳に装用する方法

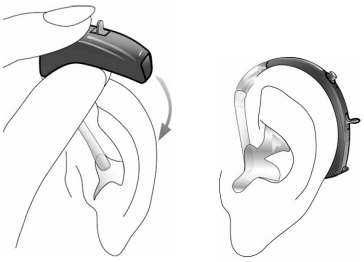
（イヤモールドの場合）

1. 図のようにイヤモールドを持ち、そのまま耳の穴にイヤモールドを近づけます。



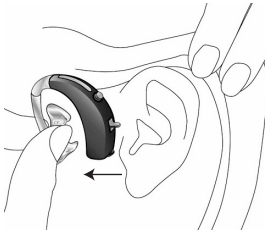
2. 耳穴の後ろの耳介部分を軽く後ろに引きながら、イヤモールドを耳の中にゆっくり入れます。入りにくい場合は、販売店にご相談ください。

3. イヤモールドが完全に収まったら、補聴器本体を耳介の後ろにはめます。



補聴器を耳から外す方法

イヤモールドをつかみ、ゆっくり耳から取り出します。

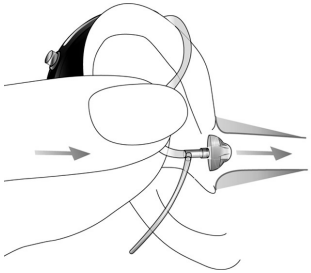


補聴器を耳に装用する方法

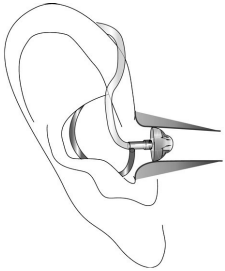
（スリムチューブの場合）

1．耳の上部に補聴器をかけます。

2. ドーム型耳せんが付いているスリムチューブを図のように持ち、外耳道にドーム型耳せんをゆっくり押し込みます。



3. スリムチューブのストッパーを図のように耳のくぼみに沿うようにはめます。スリムチューブが耳から浮かないようにしっかりとはめてください。

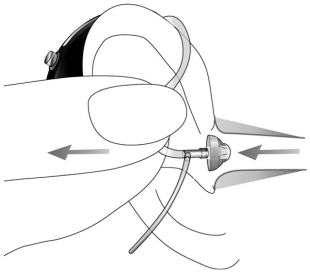


注　意

ストッパーが長い場合は、少し切り取ることも可能です。その際、固定できないほど短くしないように十分気をつけてください。

補聴器を耳から外す方法

補聴器を耳から外すには、スリムチューブの根元をつかみゆっくり耳から取り出します。



補聴器を耳に装用する方法

（クローズドドームの場合）

装用する方法と外す方法は〝スリムチューブの場合〟と同様です。

注　意

装用する前に、ハネの状態を必ず確認してください。

正しい状態

大きいハネが小さいハネの外側。

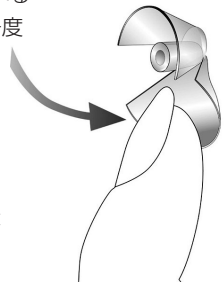
チューブとハネの切れ目が水平。

間違っている状態

小さいハネが大きいハネの外側。

修正方法

ハネが逆になっている場合、図のように一度ハネを押し出してから戻すと正しい状態に戻すことができます。



※クローズドドームは別売です。

音量の調節方法

音量を上げるには:
ボリュームコントロールを上に押します。

音量を下げるには:
ボリュームコントロールを下に押します。

音量を変更するとビープ音が1回鳴り、最適な音量になると低いビープ音（ポッ）が1回鳴ります。
音量が最大または最小に達した場合は、ビープ音が2回（ピポッ）鳴ります。

プログラムの切り替え方法

プログラムスイッチを押すたびにプログラムが切り替わります。
プログラム設定している場合、手動で切り替えることが可能です。

各プログラムの設定内容は次ページをご参照ください。

プログラム設定表

プログラム	設　定　内　容	確認音※※
プログラム 1		“ピ”（・）
プログラム 2		“ピピ”（・・）
プログラム 3		“ピポポ”（・・・）
プログラム 4		“ピポ”（・・）
ミュート※		確認音なし

※ミュート（無音）を選択している場合、音は聞こえませんが、電池は消耗しています。
※※確認音は消すことも可能です。

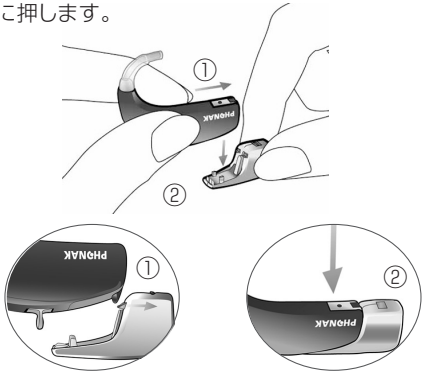
FMシステムについて（別売）

雑音、距離または反響によりコミュニケーションが困難な場合でも、FMシステムは飛躍的にコミュニケーションを改善します。
FMシステムは、送信機と受信機で1セットとなります。送信機のマイクが話し手の声を拾い、FM電波を通じて受信機に送信します。

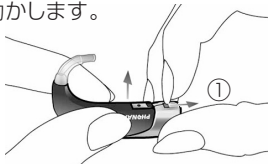
FM受信機:
オーディオシュー AS9+microMLxS
又はMLx9

※microMLxSをFM受信機としてご利用の場合は、microMLxSのスイッチを“●”の位置に設定下さい。

オーディオシュー AS9の取り付け方法:
①のように補聴器の底でロックシステムを押し、②のようにカチッとはまるまで補聴器を下に押します。



オーディオシュー AS9の取り外し方法:
①図のようにオーディオシューのロックシステムを動かします。



㈪補聴器を引き上げて外します。

FM プログラムの手動選択

- プログラムスイッチ（ご利用可能な場合のみ）：
  お知らせ音が鳴りますので、FM プログラム
  になるまで押してください。

■ご使用後のお手入れ方法

補聴器を長くお使いいただくために、日ごろからのお手入れをお勧めします。

1. 補聴器本体から電池を取り出します。
2. ティッシュペーパーや柔らかい布で、補聴器本体と電池についた汗や汚れを拭き取ります。
3. 電池ホルダーの中も湿気があるとさびやすいため、綿棒などで水分を取ってください。
4. 耳せんやイヤモールドが耳あか等でつまっている場合は、ブラシなどで取り除いてください。

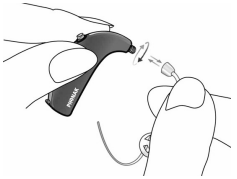
注　意

補聴器をお手入れする際に、家庭用洗剤（石鹸、洗剤粉等）は絶対にご使用にならないでください。

（スリムチューブの場合）

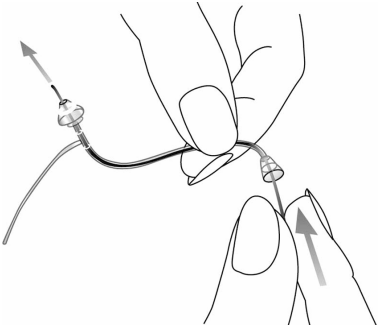
スリムチューブとドーム型耳せんが不快に感じた場合は、ご使用をやめて販売店にご相談ください。ご自身でスリムチューブを絶対に変形させないでください。
また、お買い求めの販売店での定期点検もお勧めいたします。

スリムチューブの外し方:
図のようにスリムチューブを回して外します。

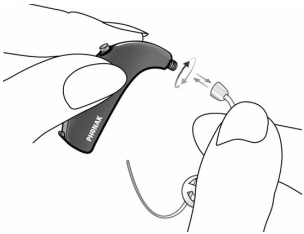


本体とチューブは柔らかい布で拭きます。

スリムチューブの掃除方法:
補聴器に付いていた側からクリーニングツール
を挿入し、ドーム型耳せんから出るようにクリーニ
ングツールを押し出します。



スリムチューブの取り付け方:
ぴったりとはまるまでスリムチューブを回して付
けます。



注　意

スリムチューブに水滴が残る危険があるため、スリムチューブとドーム型耳せんを水で洗ったり、水中に入れないようにしてください。
水滴がスリムチューブに残っていると、音がでない、または補聴器の電気部分が壊れる恐れがあります。
スリムチューブとドーム型耳せんは3ヶ月に1回程度交換してください。また、スリムチューブが硬くなったり、もろくなってきた場合はすぐに交換してください。

ドーム型耳せんは販売店でのみ交換できます。
スリムチューブからドーム型耳せんを外したまま耳に装用しないでください。耳を傷つける恐れがあります。

■補聴器の保管について

（乾燥ケースを使用される場合）
電池ホルダーを開けたまま補聴器を乾燥ケース
に入れて下さい。

注　意

補聴器から必ず電池を取り出してください。
補聴器から取り出した電池は乾燥ケースにいれ
ないようにしてください。

■初めてお使いになる方に

第一段階

初めは静かな家の中等で使用し、補聴器をつけることに慣れて下さい。最初は自分の声に違和感がありますが、本などを声に出して読んだりして違和感がなくなるまで練習します。練習は10分ほどから始めて徐々に長くしますが、疲れたらすぐ休んでください。

第二段階

静かな部屋で、身近な人と一対一で話す練習をしましょう。

第三段階

複数の身近な人と話をする練習をします。どの人が話をしているか聞き分けてみましょう。

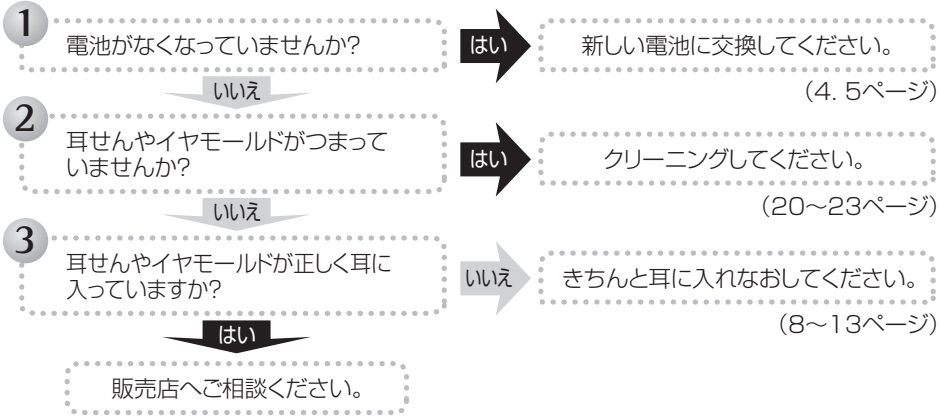
第四段階

慣れてきたら、外で聞く練習をします。

注意:補聴器の音が小さかったり、周囲の音が大きく感じたら販売店にご相談ください。補聴器の再調整が必要となります。

■故障かと思われたときは

補聴器が聞こえづらくなったときは、まず下記のようにお調べください。



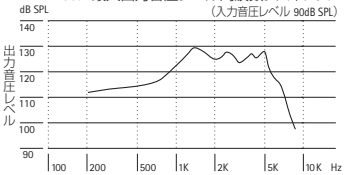
■性能及び仕様（ウナ M）

*本データは JIS C 5512:2000 の密閉形擬似耳により測定･表示してあります。

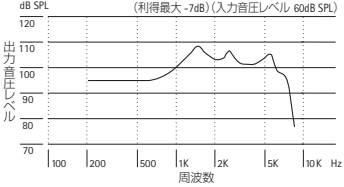
適応聴力範囲：	中等度
規準周波数：	1600 Hz
最大音響利得：	54 dB ±5 dB
90dB 最大出力音圧レベル：	129 dB ±5 dB（1600Hz）
	140 dB SPL 以下（ピーク値）
等価入力雑音レベル：	30 dB SPL 以下
全高調波ひずみ：	500 Hz　4.0% 以下
	800 Hz　3.0% 以下
	1600 Hz　3.0% 以下
電池の電流：	1.30 mA 以下
使用電池：	PR48（13）
電池寿命：	約190〜290時間
誘導コイルの感度：	85 dB SPL ±6 dB（磁界の強さ 1 mA/m ループに対して垂直の時最大）*誘導コイルは規準値で測定
利得調整器：	可変幅 ±6 dB の場合 約 2.0 dB ずつ 3 段階 可変幅 ±10 dB の場合 約 2.0 dB ずつ 5 段階 可変幅 −20 dBの場合 約 2.0 dB ずつ 10 段階 可変幅 −30 dBの場合 約 2.0 dB ずつ 15 段階

*本取扱説明書に掲載された電池寿命の値は標準的設定における目安であり、補聴器の設定やご使用の状況によって異なります。

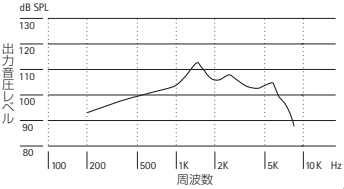
90dB最大出力音圧レベル周波数レスポンス
（入力音圧レベル 90dB SPL）



規準周波数レスポンス
（利得最大 -7dB）（入力音圧レベル 60dB SPL）



誘導コイル入力周波数レスポンス



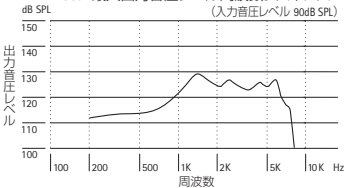
■性能及び仕様(ウナ M AZ)

*本データは JIS C 5512:2000 の密閉形擬似耳により測定･表示してあります。

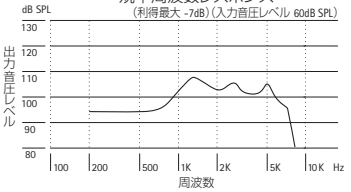
適応聴力範囲	中等度
規準周波数	1600 Hz
最大音響利得	54 dB ±5 dB
90dB 最大出力音圧レベル	129 dB ±5 dB(1600Hz) 140 dB SPL 以下(ピーク値)
等価入力雑音レベル	30 dB SPL 以下
全高調波ひずみ	500 Hz 4.0% 以下 800 Hz 3.0% 以下 1600 Hz 3.0% 以下
電池の電流	1.30 mA 以下
使用電池	PR48(13)
電池寿命	約190〜290時間
誘導コイルの感度	85 dB SPL ±6 dB(磁界の強さ 1 mA/m ループに対して垂直の時最大) *誘導コイルは規準値で測定
利得調整器	可変幅 ±6 dB の場合 約 2.0 dB ずつ 3 段階 可変幅 ±10 dB の場合 約 2.0 dB ずつ 5 段階 可変幅 −20 dBの場合 約 2.0 dB ずつ 10 段階 可変幅 −30 dBの場合 約 2.0 dB ずつ 15 段階

*本取扱説明書に掲載された電池寿命の値は標準的設定における目安であり、補聴器の設定やご使用の状況によって異なります。

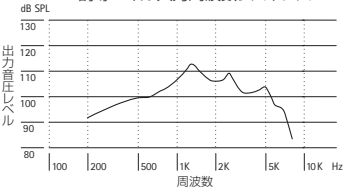
90dB最大出力音圧レベル周波数レスポンス
(入力音圧レベル 90dB SPL)



規準周波数レスポンス
(利得最大 -7dB)(入力音圧レベル 60dB SPL)



誘導コイル入力周波数レスポンス



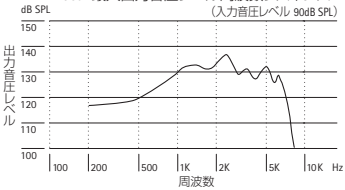
■性能及び仕様（ウナ SP）

*本データは JIS C 5512:2000 の密閉形擬似耳により測定･表示してあります。

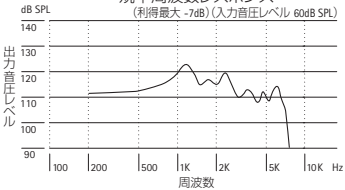
適応聴力範囲：	高度～重度
規準周波数：	1600 Hz
最大音響利得：	62 dB ±5 dB
90dB 最大出力音圧レベル：	131 dB ±5 dB（1600Hz）
	142 dB SPL 以下（ピーク値）
等価入力雑音レベル：	30 dB SPL 以下
全高調波ひずみ：	500 Hz 6.0% 以下
	800 Hz 6.0% 以下
	1600 Hz 3.0% 以下
電池の電流：	1.50 mA 以下
使用電池：	PR48（13）
電池寿命：	約190～290時間
誘導コイルの感度：	99 dB SPL ±6 dB（磁界の強さ 1 mA/m ループに対して垂直の時最大）*誘導コイルは規準値で測定
利得調整器：	可変幅 ±6 dB の場合
	約 2.0 dB ずつ 3 段階
	可変幅 ±10 dB の場合
	約 2.0 dB ずつ 5 段階
	可変幅 −20 dBの場合
	約 2.0 dB ずつ 10 段階
	可変幅 −30 dBの場合
	約 2.0 dB ずつ 15 段階

*本取扱説明書に掲載された電池寿命の値は標準的設定における目安であり、補聴器の設定やご使用の状況によって異なります。

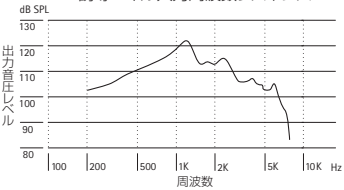
90dB最大出力音圧レベル周波数レスポンス
（入力音圧レベル 90dB SPL）



規準周波数レスポンス
（利得最大 -7dB）（入力音圧レベル 60dB SPL）



誘導コイル入力周波数レスポンス

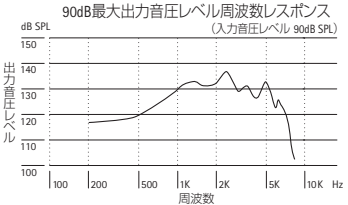


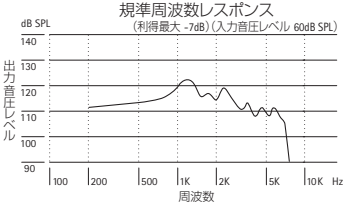
■性能及び仕様（ウナ SP AZ）

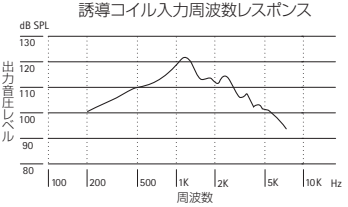
*本データは JIS C 5512:2000 の密閉形擬似耳により測定･表示してあります。

適応聴力範囲	高度～重度
規準周波数	1600 Hz
最大音響利得	62 dB ±5 dB
90dB 最大出力音圧レベル	131 dB ±5 dB（1600Hz）
	142 dB SPL 以下（ピーク値）
等価入力雑音レベル	30 dB SPL 以下
全高調波ひずみ	500 Hz 6.0% 以下
	800 Hz 6.0% 以下
	1600 Hz 3.0% 以下
電池の電流	1.50 mA 以下
使用電池	PR48（13）
電池寿命	約190～290時間
誘導コイルの感度	99 dB SPL ±6 dB（磁界の強さ 1 mA/m ループに対して垂直の時最大）*誘導コイルは規準値で測定
利得調整器	可変幅 ±6 dB の場合
	約 2.0 dB ずつ 3 段階
	可変幅 ±10 dB の場合
	約 2.0 dB ずつ 5 段階
	可変幅 −20 dBの場合
	約 2.0 dB ずつ 10 段階
	可変幅 −30 dBの場合
	約 2.0 dB ずつ 15 段階

*本取扱説明書に掲載された電池寿命の値は標準的設定における目安であり、補聴器の設定やご使用の状況によって異なります。







■アフターサービスについて

1. 保証書（別途添付）
   必ず「販売店名」、「お買い上げ日」、などの記載をお確めになり、大切に保管してください。

2. 修理について
   保証書を一緒に販売店へお持ちください。保証書に記載された内容に応じて修理いたします。

3. その他
   アフターサービスなどについてのご不明な点は、お求めの販売店までお問い合わせください。

この取扱説明書の内容は 2010 年 7 月現在のものです。各製品の仕様は予告なく変更される場合がございます。

※この補聴器は耳を保護する目的で出力 125dB SPL 以下、利得 30dB 以下に設定し出荷いたしております。

メモ

メモ

販売店名

製造販売業
フォナック・ジャパン株式会社

〒141-0031
東京都品川区西五反田 5-2-4 レキシントン・プラザ西五反田
TEL 0120-06-4079（お客様相談窓口） FAX 0120-23-4080
www.phonak.jp

許可番号 13B2X10021　認証番号 219AABZX00227000

029-0043-17/0710/Printed in Japan © Phonak AG All rights reserved